

清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」第3回助成決定にあたって

(赤い羽根福祉基金プログラム)

2026 年 10 月 28 日

1.応募状況の概要

○清水育英会×中央共同募金会 「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」第3回への応募状況は、112 件（1 億 9,626 万円）でした。

○法人種別、応募団体の所在地別、助成種別（助成規模）それぞれの応募件数は下記の通りです。

なお、助成種別は、助成プログラム①「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に支援する活動」、助成プログラム②「地域や多機関連携による重層的な子どもの学習・生活支援体制づくりなど、社会に新たな価値を創造する活動」となります。

法人種別	応募件数
特定非営利活動法人	51
任意団体(法人格なし)	35
一般社団法人	20
社会福祉法人	6

プログラム別	応募件数
助成プログラム① (助成上限100万円)	60
助成プログラム② (助成上限300万円)	52

都道府県	応募件数
東京都	10
福岡県	9
神奈川県	8
大分県	8
宮城県	7
沖縄県	7
愛知県	6
大阪府	5
北海道	3
福島県	3
新潟県	3
長野県	3
兵庫県	3
奈良県	3
愛媛県	3

都道府県	応募件数
岩手県	2
山形県	2
群馬県	2
埼玉県	2
千葉県	2
山梨県	2
岐阜県	2
滋賀県	2
京都府	2
山口県	2
佐賀県	2
栃木県	1
静岡県	1
島根県	1
広島県	1
徳島県	1
香川県	1
熊本県	1
宮崎県	1
鹿児島県	1

2.助成決定の概要

○外部識者を含む審査委員会を開催し、応募いただいた団体の審査を行った結果、19 団体、総額 2,376 万円の助成を決定しました。

総額のうち、助成プログラム①「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に支援する活動」は 15 団体・1,343 万円、助成プログラム②「地域や多機関連携による重層的な子どもの学習・生活支援体制づくりなど、社会に新たな価値を創造する活動」は 4 団体・1,033 万円の決定となります。

○応募要項に照らし合わせて審査を行い、必要性や緊急性が高い活動、また確実に効果的な支援につながる活動であると応募書から判断されるものを決定いたしました。

3.助成決定にあたって （審査委員長コメント）

本助成は、一般財団法人清水育英会からの資金を原資に、清水育英会と中央共同募金会の共同助成として、物価高騰等の影響により、経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもたちの学習と生活を一体的に応援することを目的として実施いたしました。

応募書から、困窮や孤立の状態にある子どもたちへの支援の必要性にとどまらず、不登校や発達特性、外国ルーツなど、複雑化・多様化する課題を抱える子どもやその保護者に対するきめ細やかな支援の必要性がより一層高まっていることを実感いたしました。また、子どもたちの健やかな成長と学びの機会を守るため、地域の現場で創意工夫を凝らして活動されている団体が数多く存在することを大変心強く思っております。

助成プログラム①「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に支援する活動」では、子ども食堂や居場所づくりを基盤として基礎学力や認知機能の発達を一体的に支える取り組みをはじめ、学校のタブレット宿題等に対応したオンライン学習環境の導入が見られました。また、高校生・大学生など若い世代のボランティアが子どもたちに寄り添う学習支援、英語・プログラミング学習や地域の専門職人材による体験活動、外国ルーツの親子への日本語学習と情報交換の場づくり支援など、子どもの自己肯定感や将来の選択肢を広げる多様で工夫に満ちた活動が採択となりました。

また助成プログラム②「地域や多機関連携による重層的な子どもの学習・生活支援体制づくりなど、社会に新たな価値を創造する活動」におきましても、社会福祉法人や NPO 等の地域の多様な主体が核となり、小学校・行政・社協・自治協等と連携し、支援マップ作成やアセスメントシート開発、会議体設置を通じた協働体制を構築する取り組みや、地域連携コーディネーターを配置して市内の支援活動を「つなぐ支援」へと発展させる試み、さらには学校や児童相談所、フ

リースクール等と協働して不登校の状態にある子どもたち等への包括的支援網を広げる活動など、地域全体で子どもと家庭を支える持続可能な体制づくりを目指す活動が採択となりました。

一方で、活動そのものは意義あるものでありながら、助成財源の関係から残念ながら採択できなかった活動も多数ありました。次回以降の応募に際して参考にさせていただくため、不採択となった主な理由を申し添えます。

助成プログラム①では、食支援や体験活動等が主体で本助成の要である学習支援の要素が不十分なものや、学習支援をはじめとする複数の支援活動相互の関連性・相乗効果を生み出す具体的なアプローチが読み取れない応募が不採択となりました。

助成プログラム②では、多機関の連携・協働が情報共有にとどまり、地域課題の解決に向けた新たな価値創造や重層的な支援体制の構築が見出せない、もしくは読み取れない応募が不採択となりました。

さらに応募全体として、地域の課題や支援ニーズに対して具体的にどのように対応し解決を目指すのかという詳細なプロセスや、助成金の算定根拠・必要性が不明瞭な応募も見られました。応募される活動内容や成果のイメージが読み手にしっかりと伝わるよう、具体的に言語化していただくことを期待いたします。

困窮し孤立する子どもや保護者の抱える困難とその背景は、ますます複雑化・多様化しています。だからこそ、地域の多様な支援組織や関係機関が互いに手を取り合い、温かな支援のネットワークを広げていくことが何より重要となります。

本助成による取り組みをきっかけに、子どもたちが自らの可能性を信じ、安心して成長しながら豊かな将来を描くことができる社会の実現に向け、支援の輪がより一層広がっていくことを心より期待しております。

清水育英会×中央共同募金会「経済的困窮や社会的孤立の状態にある子どもの学習と生活を一体的に応援する助成」審査委員会
委員長 松原康雄